

聖書の教えがわかる……**無料**通信講座

www.e-seisho.net/

- 入門講座 (全12課) キリスト教や聖書に初めて接する方でも気軽に学べるコース
- 基礎講座 (全15課)
キリスト教や聖書の教えについてもう少し詳しく勉強したい方のためのコース
- 永遠の友情の発見 (全10課) 〈インターネット版のみ〉
入門講座と基礎講座を終えた方で、もっと深く勉強したい方のためのコース
- 英語版講座 (全26課) 聖書の教理について英語で学ぶコース 〈郵送のみ〉
- ニュースタート健康講座 (全12課) 〈郵送のみ〉
あなたとあなたの家族の健康を守る理論と実践を学ぶコース
- かくされた宝 (全12課) ジュニア講座 〈インターネット版のみ〉

郵送版通信講座のお申込みは下記連絡先まで。

ラジオ放送

www.adventist.jp/media/ 〈インターネットでも放送が聴けます〉

- 光とともに 〈3分間のショートメッセージ番組〉
キリストの教えから、また健康・教育・福祉等の観点から、幸せな生き方の秘訣をお伝えします。

◇携帯電話 hikari.adventist.jp/

あなたの携帯電話に「光とともに」の音声ファイルを毎朝配信いたします。

◇放送メッセージを電話で フリーダイヤル 0120-269-209 〈固定電話のみ〉

045-921-1845 〈携帯電話から〉

◇ラジオ NIKKEI (第1放送) 〈短波〉 3.925 6.055 9.595MHz (月～土 7:30～7:35am)

- 希望の声 AWR アドベンチスト・ワールド・ラジオ日本語放送 〈短波〉
(毎朝 6:00～6:30 / 毎晩 22:00～22:30 再放送)

* 「希望の声」の周波数について、またその他最新情報は、下記連絡先または Eメール awr@adventist.jp へお問い合わせください。

アドベンチスト・メディアセンター / VOP ジャパン

〒241-8501 横浜市旭区上川井町 846

TEL 045-921-1416 FAX 045-921-2319

www.adventist.jp/media/



〒669-1543
三田市下深田 750-19

SDA三田キリスト教会

<https://sandacc.org/>

TEL/FAX 079-559-6733

発行：セブンスデー・アドベンチスト教団立川事務所

〒190-0011 東京都立川市高松町 3-21-8 TEL 042-526-6822

洞窟で見つけた光

ダグラス・バチュラー物語

億万長者の父親と芸能界の母親を持つ十代の少年、ダグ・バチュラー。

彼はお金で買えるすべての物を所有していたが、幸せではなかった。

麻薬に手を染め、学校ではケンカばかりで、

自殺をしたいとまで思っていた。

わたしは、なぜ「」に？

ニューヨークにある母のマンションの一室で、私はベッドに腰をかけたまま、両手に顔をうずめていた。涙が頬をつたって指の間から流れ落ちた。私はめつたに泣かないたちだったが、この時だけは涙があふれて止まらなかつた。学校に入ってからはずっとケンカばかりの生活だったし、またまた厄介なことになってしまったのだ。どうせ俺なんかろくな者にはなれないんだ。ひどい癩癪持ちで、ちよつとしたことですぐにキレてしまふんだから。

父は航空機産業の仕事で成功を収め、母は、エルビス・プレスリーの歌を作るなど、すでにこの業界では押しも押されもしない地位を築いていた。ミュージカルを作り、映画制作や評論家としても活躍していた。

母との関係で、私はスターたちにチャホヤされて育つた。年頃になって気づいたのは、芸能界の華やかな人たちの中には同性愛者がいたり、麻薬やアルコールにはまっている人が多いことだった。「どうしてあんなにまでして有名になりたいんだらう。はじめただけなのに」と、私は不思議だった。

そして、ひとつの疑問が浮かんできた。「自分とはいったい誰なんだらう？ どこから来たんだらう？ どうしてここにいるんだらう？」。私にとつてこれは新しい疑問ではなかつた。私はこれまで、

人間は単にサルが進化したものにすぎないと教えられてきた。自分がそんなものにすぎないのなら、生きていても意味がないように思えた。

死ぬことは怖くなかつたし、死ねば腐つてこやしになるだけだと先生が言っていた。簡単じゃないか。決心すると、私は立ち上がつて屋上への階段を昇つていった。……どれくらいの時間がたつただらう。屋上を吹き抜けた一陣の風で、私は我にかえつた。

家出

自分自身に絶望し、人生に意味を見いだすことのできない私は、したい放題の快樂と興奮を求めて家を出た。

「いいかげんにしてくれ。凍えちまいそうだ」

私は、ため息をついた。乗せてくれる車を求めて八時間も立ちっ放しだった。暗い思いが、ズキズキ痛む頭に押し寄せてきた。こんなみつともない状態で、神に祈るのはあつかましくすぎるんだらうな。そう思いながら心の中で祈つた。「神様、私は自分が墮落して腐り切つた人間であることを知っています。たくさんの人を傷つけたことも赦してください。そして、どうかカリフォルニアまで乗せてくれる人を送ってください。そして、何か食べる物とお金をください。ぜひまともなドライバーをつか

わしてください」。短い祈りを終わるとすぐに、白いバンが私のそばに止まった。

「どこまで行くの？」

「カリフォルニアまで」

「僕も同じだ。さあ乗れ！」

大喜びで助手席にとび乗ると、車は走り出した。驚いたことに、彼は私の食事代を全部払い、宿泊代まで負担してくれた。そして、自分がクリスチャンであること、イエス・キリストや聖書の話を、カリフォルニアまでの長い道のりの間ずっと話し続けたのだった。

やがて、彼は私をパームスプリングスの峡谷の入口まで送ってくれと、別れ際に四十ドルもくれた。彼の車が走り去った時、突然思い出した。オクラホマの道端での祈りのすべてが応えられたことを。

洞窟暮らし

私はできるだけだけ人と離れて暮らしたかった。洞窟に行く前に、親切なドライバーがくれた四十ドルで缶詰や肉を買った。重い荷物が肩に食い込む痛みと息切れをこらえて登っていると、まるで自分が巨大な岩を苦勞して登っているアリののように思えた。

何時間もの苦闘の末、ついに美しい溪流のそばにある洞窟にたどりついた。中に入ってみると、そこは居心地のよい場所だった。すすで真っ黒になった天井は、以前、誰かが住んでいたことを物語っていた。壁から突き出している岩棚の上には、ほこりをかぶった一冊の黒い本があった。ほこりを払うと、「聖書」と書いてあった。「誰かが神を探し求めていたんだろう」。私は独りごとを言いながら、開きもせずに戻した。私はこの小さなパラダイスが気に入って荷物を運び入れ、寝袋を敷いて外にはハンモックを吊った。こうして、洞窟での快適な生活が始まった。

ある日、町に買物に出たとき、スーパーマーケットの裏でゴミ箱をあさっているヒッピーたちを見てギョツとした。

「何をしてるんだい？」

「宝探しさ。店はまだ食える物を大量に捨てるんだ」

「オエッ！ 俺はこんな臭いところから食べ物をあさったりしないぞ。あいつらは恥も外聞もないヤツらだ」と思ったが、しばらくすると、私もゴミあさりに加わるようになった。皮の黒くなったバ



ナナが一番のお気に入りだった。パン屋の裏には、大量のパンやピザが捨てられていた。後で気がついたのは、「罪はゴミあさりのようなものだ。初めはとも不快でいやなものに思えても、慣れてくるとだんだん平気になり、しまいには抜けられなくなってしまう」ということだった。

心の平安を求めて

やがて、洞窟生活にも慣れ、大自然の懐なごみの中で暮らすうちに、私の心は徐々に、どうすれば得られるかわからない心の平安を追い求めていた。哲学や東洋の宗教書は、瞑想と内省を促した。しかし内省を深めれば深めるほど、これまで、いいかげんな生き方をしてきた自分に対して不安になってきた。ある日、岩棚から聖書を取り出してほこりを払った。聖書を開くと、内側の扉とびらに手書きのメッセージを見つけた。「一九七二年七月十二日、生まれ変わる。この聖書を見つけた人がこれを読んで、私と同じ平安と喜びを見いだすように祈る」とあって、その人の署名がしてあった。

「私が平安を求めているのは確かだが、この本から見つかるのだろうか」と思いながら、読みはじめてまもなく、私は、アダムとエバの話が気に入り、これを信じたいと思った。なぜなら、もし神が最初の男女を創造なさったとすれば、私はその子孫であり、アモーバやサルから進化したのではないからだ。私は、自分自身に誇りが持てるような気がしたのだ。

「ノアの洪水」の話は想像力をかき立てた。水が全地を覆っていたのなら、ニューメキシコの二千メートル以上の高地で、海の生物の化石が発見されても全く不思議ではない。学校で習ったどんな説よりも理になつていていると思つた。私は次第に引き込まれて食事中も聖書を読み続けた。

十戒は三回もくり返して読み、これほど完全なきまりを初めて見たと思つた。「もし、人々が皆このきまりを守って生活したなら、世界はどれほどすばらしくなるだろう!」。私は心の中に聖書の情景を思い浮かべ、神様がこの世界にかかわっておられることが実感できるような気がしてきた。

旧約に続いて新約聖書を読みはじめると、そこにはイエス・キリストが病人を癒いよし、天国について教え、慮しぐたげられている人々を助けたことが書かれていた。私は、ヒッチハイクの時に、クリスチャンが通りかかって助けてくれたことを思い出した。聖書の中には自分が求めていた生き方があるような気がして、キリストについてもっと詳しく知ろうと思ひ、町の図書館に行つて調べた。そして、キリストは実在の人物であり、その誕生の年から西暦が始まっていることを知つたのだつた。……

ダグの人生は、聖書との出会いによって、奇蹟的に、まったく新しい歩みへと変えられたのです。そして、彼は今、多くの人々が生きる勇気と希望を見いだすことができるように、講演活動を続けています。神様は、あなたにも聖書を通して生きる意味を見つけてほしいと望んでおられるのです。